

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果及び指導改善 (R6.9.6作成)

文責：教務主任

## 1 令和6年度の結果から

	本校	県との差	岐阜県(公立)	全国(公立)
【国語】	63	+3.0	60	58.1
【数学】	55	+1.0	54	52.5

### 【国語】

	本校	県との差	県	全国
知・技	言葉の特徴や使い方	+6.1	59.3	59.2
	情報の扱い方	+2.7	60.5	59.6
	我が国の言語文化	+0.4	77.2	75.6
思判表	A 話すこと・聞くこと	-0.2	61.2	58.8
	B 書くこと	+5.6	68.1	65.3
	C 読むこと	+2.8	49.8	47.9

### 【数学】

	本校	県との差	県	全国
A 数と式	52.1	-0.7	52.8	51.1
B 図形	46.9	+3.4	43.5	40.3
C 関数	61.8	-0.9	62.7	60.7
D データの活用	58.6	+2.3	56.3	55.5

### 【結果及び分析】

【国語】【数学】はともに、本校の平均正答率は、岐阜県平均・全国平均とほぼ同等の数値、もしくは上回っている。

全校研究主題『主体的に学びに向かう生徒の育成』を掲げ、研究の柱である「小集団での探究」と「学びの実感」として、小集団でよりよいものを目指す学習や、学んだことに充実感をもつ場面を意図的に位置付け、継続的に指導をすることにより、特に国語・数学では活用する力や表現する力の向上につながったことと考える。

よりよいものを目指す小集団学習はどのような場面でどのように行うとよいのか、生徒が学びを実感した場面はどのような場面だったかの実践・検証を行い、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。

## 2 生徒質問紙の結果から

※数値は、①～⑤は「1(当てはまる)」と回答した生徒の割合」表している。

### 【①自分にはよいところがあると思いますか】

	R4	R5	R6
本校	41.3	45.6	41.3
岐阜県(公立)	38.1	39.2	42.3
全国(公立)	36.0	37.2	40.4

### 【②先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか】

	R4	R5	R6
本校	57.5	64.1	61.3
岐阜県(公立)	48.1	47.1	60.3
全国(公立)	39.9	40.0	44.2

### 【③将来の夢や目標をもっていますか】

	R4	R5	R6
本校	33.8	49.5	33.3
岐阜県(公立)	40.1	39.8	37.1
全国(公立)	39.8	39.4	36.1

### 【④いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか】

	R4	R5	R6
本校	83.8	82.5	77.3
岐阜県(公立)	84.4	81.6	81.0
全国(公立)	82.6	80.3	77.5

### 【⑤話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

	R4	R5	R6
本校	42.5	35.0	49.3
岐阜県(公立)	38.7	39.5	42.1
全国(公立)	34.1	34.3	36.4

### 【結果及び分析1(自己肯定感・有用感に関わって)】

②については、昨年度と同等の結果であり、日常的に「温言温動」を認め価値付けてきたことや、こたんや教育相談を活用しながら生徒が安心して学校生活を送れるように継続的に行ってきた成果であると考えられる。

しかし、①についてはおよそ2割の生徒が、③については3割の生徒がそのように感じられていない。本校ではPDCAのサイクルを明確にし、タームの重点に合わせて行事や講演会を位置付けてきた。しかし、教師の指導の方向と生徒の実感が結びついていないと考えられる。短学活を有効に活用し、担任の経験談を交えたり、生徒の姿の裏にある思いの部分を引き出し認めたりするなど、指導の改善が必要である。

### 【結果及び分析2(いじめ防止に関わって)】

④の設問に対しては、はっきりと「当てはまる」と答えられるように生徒に考え導いていけるように日常的に心を耕す指導が必要である。現在、生徒会と職員間で「梅林中人権三箇条を意味のあるものにする」とをキーワードに意識調査を行い、いじめを見逃さない日や人権講演会、相互が良好な人間関係を構築する力を身に付けるスマイル活動等を仕組みように取り組んでいる最中である。さらには校区の小学校との連携を図りあいさつ運動や児童会生徒会サミット等、人権の意識が表出できるような場面をつくるように計画を見直している。

### 【結果及び分析3(主体的・対話的で深い学び)】

今年度は先述のように研究主題も変更し、探究課題の設定や深い学びに近付いたかどうかの実践・検証を行い、さらに意味のあるものになるようにしていく。研究授業だけでなく、教師同士で授業を見合ったり話し合ったりするなど、教師の実践を交流しながら指導法を改善し、研究主題に近付いていけるように取り組んでいく。